

No. 920

肥満児学園

—千葉—

千葉県富津海岸を走るのは、肥満児学園の子供達です。肥り過ぎて、運動することが苦手の子供達ばかりを集めて、歩き、そして走る特訓の毎日。大自然の中でハイキングかと思えば、山あり、谷あり、川ありの行軍特訓。心臓病や高血圧から健康を守るのが目的とあって、子供達もやせたい一心でがんばります。

日頃、学校では、デブだのブタだのとからかわれていた子供達も、いずれ劣らぬおデブちゃんの中に入って劣等感がなくなったのか、のびのびと特訓に励んでいます。

ところで肥った原因を子供達に聞いてみると、「ボクのうち、おでん屋でしょ、売残りを毎日食べているうちに肥っちゃった」「うちはね、お母さんが肥っているの、血統だからしょうがない」。ところで先生の意見は「肥満の大部分は親の放任や日常生活の不規則にある」とのこと。

ともあれ、低カロリーの食事にもめげず、減量に励んだ成果は、参加者46人をあわせると 100 キログラムをこえるとか。二人分の体重が消えたことになります。夏休みを利用した減量学園、まずまず成功したようです。

暗いキューポラの町

—埼玉—

人影もなく夏草がおいしげる。倒産した鉄物工場だ。キューポラの町川口市は、今、不況にあえいでいる。自動車業界の不振や、大手機械企業の生産調整による受注の激減は、下請け工場を破産に追いやる。今年に入って、倒産が目だつようになった。

川口では名門の工場が四億円の不債をかかえて倒産。債権者の一人は、

「大手の注文の激減と、それに対応して生産品目を変えていくというような対策をとれなかったからでしょうね。しかし、おいそれと生産品目をかえるといつても……」

折りしも、政府は現在の固定為替制度を変動為替制度に移すと発表。円の切り上げを確実にほのめかした。

景気の良い時は増産に追いまくられ、賞状などをくれたりした大手企業。しかし、それら大企業を支えていた下請けの小さな工場はこれからどうなるのだろうか。児玉くら。ある鉄物工場の女社長さんだ。

「主人が亡くなってしまったから女一人で本当に大変でした。ようやくここまで来たのに……。これから先ゆき大変です。引退したい気持です」

社長ともどもがんばってきた鉄物労働者達。よぎる不安はかくせない。あたかも自らの債務のように不況の重みを背負う彼等。不況の風が吹きまくる長く重い季節がやってくる。しかし中小企業や町工場の倒産という言葉だけは聞きたくない。

198
399